

# 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里南小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」，「算数」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### （1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

\* 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### （2）児童に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

\* 調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### （1）教科の正答率について （※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国 語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算 数	学習指導要領第2章第3節算数における，「数と計算」，「量と測定」，「図形」，「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

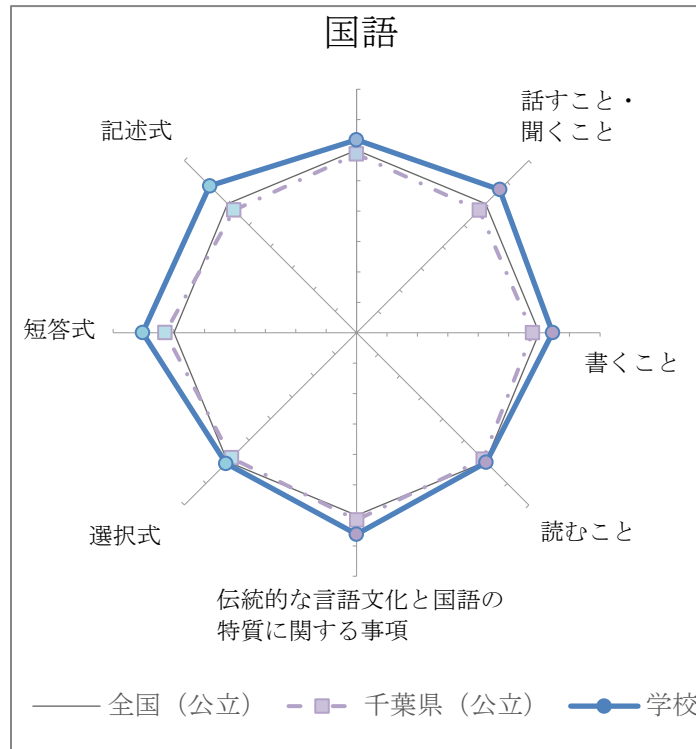
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



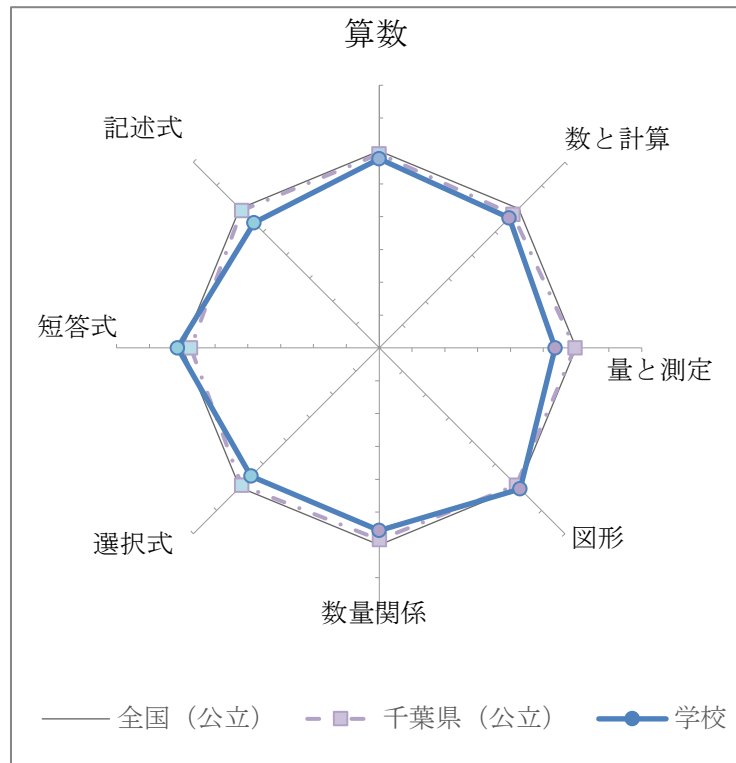
#### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が上回っています。
- 特に「短答式」「記述式」の問題形式では、全国平均を大きく上回っています。
- 5年生までに習得した漢字を文の中で正しく使うことができます。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができます。
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができます。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題があります。
- ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題があります。
- インタビューをする時に、目的に応じて質問を工夫することに課題があります。

#### 【改善方策等】

- 資料を根拠として自分の考えを明確にした意見文を書く経験を積み重ねる必要があります。そのためには、国語だけにとらわれず他教科でも「根拠」や「理由」を明確にして「自分の考え」を表現する場面を更に増やし、活動の中に位置付けていきます。
- 日常生活で使われることわざや慣用句の意味を考えたり、主語・述語の関係に目を向けて文を書いたりする活動を積極的に取り入れ、表現力の向上を目指します。
- 話し手の意図をつかみながら聞く能力を高めないと、目的に応じた的確な質問ができません。そのためには、メモを取りながら相手の話を聞き、メモした言葉の中から話し手の伝えたかったことにつながる言葉を選び出す練習を取り入れていきます。
- 漢字の読み書きの力は、個人差が大きいです。繰り返し練習して身につけさせる必要があります。基礎的な問題を繰り返し解くドリル学習を、さらに充実させてまいります。また、小テストを実施したり、「とみの国検定」の合格を目標にしたりして、児童の意欲を継続させていくように努めてまいります。

## 算数



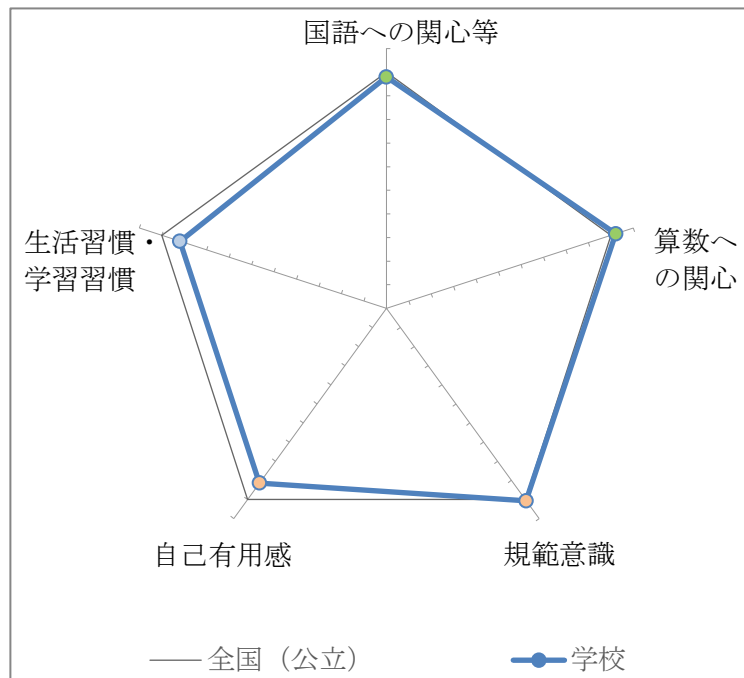
### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がほぼ同等になっています。
- 問題形式で、短答式の平均正答率は全国平均を上回りましたが、記述式のそれは全国平均を少し下回りました。
- 棒グラフを読み取る問題では、資料の特徴や傾向を読み取ることができています。
- 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして正しく計算することができます。
- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題では、課題が見られました。
- 場面の状況から、単位量あたりの大きさを基に、求め方と答え方を記述する問題では、平均正答率が全国平均を下回りました。

### 【改善方策等】

- 面積の求め方の式をグループで交換し合った後で、友だちの考えを理解し、自分で表現し直す練習が必要です。その後、比較検討し、自分で表現し直した時にわからなかったことを言葉で書き足す活動を積み上げていきます。
- 単位量あたりの大きさを比べる問題では、1にあたる大きさについて理解するために、与えられている数値を数直線に表して考えることが有効です。問題文を読み、一つ一つの数値が何を表しているかを丁寧に確認しながら数直線を作り上げたり、数直線を基に説明したりする活動を充実させていきます。
- 問われていることが何かを適切に判断するためには、問題文を読む力が求められます。国語と同様、文章を読んで要点を正しく読み取る指導を心がけていきます。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「国語が好き」と回答した児童の割合は全国平均を上回りましたが、「国語で学習したことが将来役に立つ」と思う児童の割合は全国平均を下回っています。
- 「算数が好き」「算数で学習したことが将来役に立つ」と回答した児童の割合は全国平均を上回っています。
- 「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合が、全国平均を大きく下回っています。
- 「家で自分で計画を立てて勉強しているか」で「している」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく下回っています。

### 3 まとめ

国語・算数ともに全国平均と同等のレベルですが、更に学力を向上させていくことが求められます。目的に応じて話し合ったり文章を書いたりする活動が充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。

正答率が高い児童は、以下の質問において「当てはまる」という回答が多い傾向にあります。

- ・「学校のきまりを守っている」
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」
- ・「朝食を毎日食べている」
- ・「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」

この結果、家庭での生活・学習習慣と学力には関連があると考えられます。家庭学習の習慣や規則正しい生活習慣を身につけるとともに、学校での出来事を話題にしたり、地域の活動に親子で参加したりする機会を増やす等、引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。